

市長定例記者会見 2010年8月11日

- ・ 日 時 平成22年8月11日（水）午前11：00～
- ・ 場 所 本館3階第1会議室
- ・ 記者数 14人

議題 「松山市パスポートセンターのオープン」について

（市長）

まず初めに、一言お詫びを申し上げます。8月1日に発生いたしました中央浄化センターでの火災事故につきまして、市民の皆さん、特に中央処理区の皆さんをはじめ、周辺地区、農業関係の水利権者の方々に大変ご迷惑とご心配をお掛けいたしましたことを心からお詫び申し上げます。

中央浄化センターでは、一日も早い復旧に向けて現在も全力で取り組みを続けているところで、8月2日の夜半には一部、汚水処理施設の運転を再開し、放流水質が基準値を下回る状態まで回復しておりますが、事故発生から19時間、基準値を上回る汚水が放流されました。このことにつきましては、農業関係者にも速やかに状況を連絡し対応させていただいております。もちろん、汚水の受け入れを止めるという選択肢もありましたが、それを行いますと逆に、いろいろなところで全く処理されていない汚水が溢れるということにもなりますので、十分に数値をチェックしながら放流するという選択をさせていただきました。これまでの間、市民の皆様にはご心配をお掛けいたしました。基準値を上回る処理水が流れたのは19時間ということでございますが、昨日の午前7時前には仮設の受電設備の復旧作業が終了し、全ての汚水処理施設が稼働できる状態にまでこぎ着けたところでございます。

しかしながら、汚水を分解処理する微生物が完全に回復しておりませんので、基準値は下回っているものの、これまで非常に高い水質で処理していましたので、元の水質に戻るまでには、もう少し時間が掛かると思われます。

また、今回の事故を受けまして、他の下水浄化センターにおいても、8月9、10日の2日間を掛け緊急点検を実施し、異常が無いことを確認しております。

今後は、同様の事態が生じないよう電気設備の改善、通常の停電であれば自家発電が稼働するのですが、今回は配電盤そのものの火災、これもまだ現段階では原因が特定できておりませんが、もちろん原因が特定されれば、二度と起こらないような対応を取ることは言うまでもありません。中央浄化センターは古い施設でありまして、他の施設では一つの設備が駄目でも、予備の設備が稼働するようになっていますが、今回の事故を受けまして電気設

備の改善、あるいは発動発電機などの仮設機材が緊急に調達できる体制を検討するなど、再発防止に全力を尽くしてまいりたいと思います。

それでは、本日の議題であります松山市パスポートセンターのオープンについて説明させていただきます。

松山市では、来たる8月23日月曜日から、パスポートの申請受理、交付業務を開始いたします。従来、一般旅券の発給申請受付、交付に関する事務は、愛媛県が一手に行ってまいりましたが、旅券事務の一部が愛媛県から松山市に権限移譲されることに伴い、これは全面的な権限委譲ではなく一部委譲の範囲の中で行ってまいります。松山市民の手続きは、原則、本年4月から開設準備を進めてまいりました松山市パスポートセンターで行うこととなります。ただし、災害や事故等、緊急渡航を要するときなどの申請は、これまでどおり愛媛県が受付窓口となります。

松山市パスポートセンターは、宮西一丁目フジグラン松山別棟2階に開設し、パスポートの発給申請の受理、交付に加え、申請に必要とする戸籍謄本、抄本等の交付やパスポートの交付時に手数料として貼付する収入印紙、愛媛県証紙の販売も同一窓口で行います。これは今までとは違ったサービス拡充につながります。

なお、パスポートの発給申請受理、交付につきましては、市民の一層の利便性を図るため、12月29日から1月3日までの年末年始や施設休業日などを除きますが、定休日なしで午前9時から午後6時までの営業といたします。こちらこれまでと比べて施設、サービスの拡充につながります。特に、申請受理を土、日曜日に行うことについては四国初、中核市初となる試みであります。

また、平成3年から市民の皆さんにご利用いただいておりますフジグラン松山生活館4階に設置の市民サービスセンターは、パスポートセンターと同じフロアーに移転し、リニューアルして、便宜を図ることを考えております。これまで毎週火曜日に設けておりました定休日もこの際廃止いたしまして、より一層のサービス向上に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。ただ、今まで申請から交付に要する日数は4日間でしたが、以前にもこれについてはお話ししたとおり、あくまでも権限委譲が一部であるので我々が窓口を設けて申請を受け付けし、それを県に持って行って県が国にという事務を行いますので、この部分は権限委譲が法律でできないようになっていきます。そうしたことから、市が事務を行うことによって、今申し上げたような戸籍等々の手続きとリンクさせると、定休日をできるだけなくし、時間を拡大するというサービス拡充が一方であるものの、今までと比べ交付までの日数が6日間と延びるのですが、それは今申し上げたような権限が一部しかないということの限界とご理解いただけたらと思います。ただし、これも事務処理に慣れてくるに従って、今後さらに短くするよう全力で取り組みを進めていきたいと思っております。

詳細につきましては、担当から説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

（記者）

先日のピースフェスティバル（P' s festival）を終えての感想は。

（市長）

コンセプトとして、本当に会場に集まってくださった皆さまに、こういうイベントができるのも社会が平和だからというふうなことを考えるという呼び掛けをさせていただくと同時に、その思いを持ってP' s（ピース）と命名したわけですが、大変多くの方々、2日間で延べ7万人の方々のご来場されました。エイベックスも独自のルートでPRに努めていただきましたので、県外からもかなり多くの方がお越しいただき、松山の魅力を訪れた方にお伝えする大変良い機会になったのではないかと考えています。私も2日間会場の後ろの方から眺めていたのですが、ご家族連れも多く大変賑わいをみせていたのではないかと思います。苦情も2件ありましたが、適切に対応しておりますので、市民の皆さんのご理解をいただけたのではないかと考えています。

（記者）

初日の来場者数の発表が延べ3万人ということだったが、3万人という数字が実際とかけ離れているのではないかな。

（市長）

朝からの出入りがありますから。

（記者）

当初の発表された3万人というのは、最初から延べと言われていたのか。

（市長）

はい。延べです。

（記者）

報道対応で、エイベックスさんの方に当日取材をすると全然話が違わないのかというふうなこともあり、主導権が松山市ではなくエイベックスさんに握られていたのではないかと強く感じた。今後実施するに当たってどうか。

（市長）

今後実施するかどうかについては、全然決まってないです。

（記者）

もし実施するに当たって、松山市がもっと主導権を握ることができないのか。

（市長）

事業費の半額については、エイベックスさんに負担していただいております。それからも

う一つはアーティストの方の肖像権であるとか、さまざまな問題がありますので、そのあたりの法律的な問題が絡んできます。どうしても専門的な分野については、エイベックスさんの考え方を優先せざるを得ないところもあると思います。

（記者）

わが社にも、なぜタイムテーブルが直前まで出ないのかと苦情や市民から問い合わせがあった。そうしたところの改善は今後どうするのか。

（市長）

アーティストの皆さんと事務所、エイベックスさんもそれぞれのアーティストの所属事務所との交渉になっていますから、その中でできるだけ良い人を出したいということでぎりぎりまで頑張ってくださったので、例えば後藤真希さんも本当にぎりぎりまで交渉していただいて、その結果急きょ出演を決めていただいたという背景もあります。少しでも良い内容という気持ちがそういうことにつながっているのです、その点をご理解いただきたいと思います。もちろん、これが有料でしたら、もっときちっとタイムテーブルを出さないといけないと思うのですが、あくまでも堀之内公園の完成を祝うイベントなので、その点をご理解いただきたいと思います。

（記者）

来年以降の予定というか、もう一回やりたいとかそのあたりはどうか。

（市長）

まったく決めてないです。

（記者）

終ってみて、もう一回やりたいという願望はあるのか。

（市長）

会場に来られた方々からは、ぜひ毎年やってほしいという声は寄せられていますが、これは全体を考えて、来年への課題とした上で検討すればいいのではないかと思います。

（記者）

エイベックスさんは企業ですし、こういうイベントを行って会場に来た人に楽しんでもらって平和についても考えてもらおうというのは分かるが、あえて市が入ったことで、松山市だからできたことというのは、終ってみてどういうところがあったと考えるか。

（市長）

今回はとにかく堀之内公園の完成というものを記念しての位置づけでしたので、そういう意味では松山市ならではの、セントラルパーク完成という一つの大きなキーとなったと思います。

（記者）

堀之内公園をランドマークとして位置づけようということか。

（市長）

これだけ広大なセントラルパークを擁している街というのは、そんなにはありませんから、大きなランドマーク的な場所に成長していくのではないかと期待しています。

（記者）

県知事選挙について、先日、連合愛媛の方が県知事にというお言葉があったように、具体的に中村市長の名前が出る中で、心境の変化や自分がこう言われることに対してどう思うか。

（市長）

加戸知事が正式に表明されている段階ではありませんから、知事選挙についてのコメントは差し控えたいと思います。自分自身としては市長選挙の際、地域の皆さんから市長選挙へという声をいただきまして、その時こんな自分に期待していただけたということに大変感動しました。結果は別で考えてもいませんが、そういう声をいただくというのは、人間としては光栄なことだと思います。だからと言って、自分がどうという段階ではありません。今日はこれから県へ行きますけれども、水の問題で非常に大きな前進が見られるかどうか分かりませんが、そういう段階を迎えておりますので、少しでも前進につながるよう全力を注ぐというのが、今日この時点での私の思いです。

（記者）

中央浄化センターの件ですが、配電盤の設備が１９７４年に設置され今年交換の時期だったということだが、交換の時期が遅かったというような認識を持っているか。

（市長）

年月から言えば早くした方がいいというのはあったのですが、交換すべきだということで昨年発注しまして、９月に交換の予定でしたが、その直前１カ月というところで事故が起きてしまったということは、本当に申し訳ないと思っています。

（記者）

市全体にさまざまな施設がある中で、かなり年月が経過しているものもあると思うのですが、先ほど２カ所点検しているということだが、さらにどんな施設、古い設備について点検するのか。

（市長）

し尿処理施設の点検を行い、異常なしという報告が入っています。それから、クリーンセンターも点検済みです。